

大 阪 市 中 教 研 会 報

No. 144

編集者 大阪市立中学校教育研究会
発行人 大阪市立中学校教育研究会
会長 松 井 信 次
発行所 大阪市立中学校教育研究会
大 阪 市 立 上 町 中 学 校
TEL 06-6762-6556

「持続可能な社会の 創り手の育成」に向けて



大阪市立中学校長会

会長 山 咲 進 一

コロナウイルス感染症が感染法上の5類へ移行したことに伴い、学校現場では、ほぼ通常の教育活動が行われるようになりました。子どもたちの元気な声や姿とともに地域活動も活発となり、学校が大いに息を吹き返してきたという感があります。

令和3年4月に「令和の日本型学校教育」が示され、各校では、全ての生徒の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた取組みが行われています。また、昨年6月には新たな教育振興基本計画が閣議決定され、基本的な考え方として、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示されました。

社会の在り方が劇的に変わり、将来の予測が困難な時代であるからこそ、一人ひとりの子どもが、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会の変化に対応していく必要があります。そして、多様な幸せ（Well-being）のもとに、子ども自らが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。

持続可能な社会の創り手を育成するための手段としての「個別最適な学び」と「協働的な学び」であることから、各校においては、学習者用端末の有効な活用など、指導方法の工夫改善に取り組まれていることと思います。さらに、多様な生徒への適切な対応など、今日まで教員としての経験と実践だけでは解決できない課題も山積しています。これらの対応を充実させていくためには、高度な専門性を有する人材を有効に活用することと、あわせて教員の「働き方改革」により業務の軽減を図るなども重要です。

このような状況にある今日、「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成」をテーマに研究に取り組まれ、全市研究発表会・全体研修会等を開催されました中学校教育研究会の役員並びに各研究部の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、ご指導ご支援を賜りました大阪市教育局・大阪市教育局センターの皆様方に心より感謝申し上げます。

「教育相伝」



大阪市立中学校教育研究会

会長 松 井 信 次

約3年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症対策が緩和され各研究活動・発表会を対面形式で開催できました。全市研究発表会では、どの会場でも若い会員の先生方の活気が満ち溢れ皆様の高い研究意欲を感じました。ご尽力いただきました各ブロック委員長様、各研究部長様をはじめ、すべての部門の専門委員の皆様にも、深くお礼申し上げます。

さて、この会報『大阪市中教研会報』は、昭和51(1976)年7月10日に第1号が発行され今回144号となりました。会報第1号で当時の西村会長から、礼記の中の「学記」の一節「学んで然る後に足らざるを知り、教えて然る後に苦しみを知る。足らざるを知って然る後によくみずからかえりみるなり、苦しみを知って然る後によくみずから勉むるなり、故にいわく教学相長ずるなりと」が紹介されています。会長は「私たちは教師として、つねに生徒とともに伸びていく『自己研修』の姿勢をもつことが大切だと思います。」と記されています。

私も「人が人を教え育む」にあたり「どの時代でも自問し不断の研修は欠かさず自ら成長する姿勢」を教育に携わる会員の皆様が継承されることを切に願います。「あらゆる情報が氾濫しています教育の本質を見失ってはなりません。新たな課題を解決しさらに発展させウェルビーイング（幸福感）を実現させましょう。」

最後になりましたが、各教科領域の部長先生や各ブロックの委員長、各専門委員の先生方はもとより会員の皆様方には、ご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。また、ご指導・ご助言を賜りました大阪市教育局・大阪市教育局センターの皆様方に厚くお礼申し上げます。

部門より研究活動・成果について

国 語 部

「生きる力」としての国語力の育成

—自分の思いや考えを深める言語活動の充実—

赤 坂 寛 臣（今市中学校）

8月の各ブロック研究発表会では、昨年と同様に集合研修を行った。

第1、2ブロック…「読解力をめざした取り組み —明日から使える指導の工夫—」というテーマで1～2年公開授業を実施し、「読解力をめざした取り組み」についての実践発表をした。指導助言を大阪市教育センター指導主事にいただいた。

第3ブロック…「思考力・判断力・表現力を支える言語活動の充実」を研究テーマに「授業における工夫について」3名の実践報告をした。その後、グループ・全体交流を実施した。

第4ブロック…「読解力向上をめざした授業づくり」について研究をした。「『読むこと』における自分の考えを形成する指導について」講話を大阪市教育センター 指導主事にいただいた。その後、研究協議を実施した。

10月11日の全市研究発表会では、「『水問題』の解決方法について話し合い、自分の考えを深めよう」というテーマで研究授業を実施した。新たな指導のモデルとなるような授業を提案できたものではないかと考える。また、「深い学びを実現するパフォーマンス評価 —国語科を中心に—」という題で京都大学大学院 教授 西岡 加名恵先生に講演をしていただいた。

書写については、中文連書道部門の活動を支援し、「『生きる力』を育む書写教育」を研究主題に取り組みを進めた。夏季休業中に講師の先生をお招きし、生徒向けの講習会（行書や篆刻）の実施を支援した。10月の全市研究発表会では書道パフォーマンスの舞台発表を動画で発表した。総合文化祭では、作品を展示した。令和6年2月に開催される生徒作品展に生徒の作品を出品する予定にしている。

社 会 部

一人ひとりの未来につながる社会科の創造

～問い・探究、そして参画へ～

小 野 寺 健（新豊崎中学校）

- ・研究主題に基づき、教科指導・授業実践・授業検討会等を通して研究活動を行った。研究にあたっては、龍谷大学法学部 中本和彦 教授にご講話、ご指導・ご助言をいただいた。
- ・北方領土問題教育指導者現地研修会、北方領土青少年等現地研修会、北方領土近畿ブロック研修会に参加し、北方領土に関する見識を高めた。
- ・ブロック研究発表会では、研究協議や社会見学（アマゾン尼崎FC）を行い、本市社会科教員の教科指導力を高める内容を提供した。
- ・全市研究発表会では、大阪市立天王寺中学校を会場として、同校 上嶋 一志 教諭による公開授業、研究部長による基調提案、3分野の研究委員長より公開授業や紙上発表についての概要説明、中本 教授 の講演「どうする？歴史で社会参画 ～問い・探究、そして参画へ～」(VTR)を行い、最後に教育センター 吉中いづみ 指導主事に講評していただいた。事後アンケートも実施し、今後の活動のための総括材料とすることができた。
- ・大阪市立中学校総合文化祭に参加し、作品展示と生徒研究発表会を実施した。
- ・全国中学校社会科教育研究会栃木大会に参加し、全国の動向を把握するなどの成果を得た。
- ・近畿中学校社会科教育研究会和歌山大会に参加し、研究資料を社会部で共有した。
- ・近畿中学校社会科教育研究会・大阪府公立中学校社会科教育研究会、堺市立中学校教育研究会社会科部会、大阪教育大学附属平野中学校と連携し、令和7年度に開催する全日本中学校社会科教育研究大会大阪大会の実行委員会を開催して準備を進めた。
- ・副読本「おおさか環境科」の編集委員会・編集部会に参加し、教材開発に携わった。
- ・会誌「社会科通信」を発行し、全校に配信した。（予定）

数 学 部

未来を創造する数学の主體的・対話的で深い学びをめざして

中 西 啓（佃中学校）

- ・数学部では、今年度の研究主題を「未来を創造する数学の主體的・対話的で深い学びをめざして」として取り組み、研究発表会は、3つの公開授業・研究発表と講師先生の講演会で構成しました。
- ・本年度は、コロナ禍の制限が解除され、例年通りの研究発表を大阪市教育委員会、教育センター等の関係の皆様のご指導・ご助言、ご支援を賜り、創意工夫を凝らして、実施することができました。
- ・今年度は、佃中学校を会場とした研究発表会を開催しました。
- ・研究発表会当日は、4名の専門委員の公開授業・研究発表、奈良教育大学 数学科教育 教授 近藤 裕 先生の

～数学科における「説明・証明」の能力の育成～ をテーマとしたご講演を実施しました。

- ・公開授業では、これまでの研究発表会の伝統を継承しつつ、I C T機器を活用するなど新しいスタイルを模索するなかで行うことができました。いずれの授業も、数学部として、脈々と大切にされてきた丁寧な授業づくりに取り組み、成果を積みあげ、大阪市の子どもたちの学力向上に一石を投じたのではないと考えています。
- ・当日参加していただいた皆様のご意見を、Google Forms で作成した 「数学部アンケート」 にて集約し、成果と課題を分析して大阪市中学校数学教育のさらなる発展を進めていく所存です。

理 科 部

理科の見方・考え方を働かせて、 未来を創造する資質・能力を育む理科教育

谷 塚 高 雅（加美中学校）

- ・今年度も、研究主題を 2 つのグループで分担し、研究を進めた。
- ・全市研究発表会は、堀江中学校の教員による研究授業を事前に撮影・編集・D V D 化したものを視聴する形で進めた。生徒が、生物に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度が養われ、単元の振り返りと理科の有用性の関連付けを行うことができた。
- ・ブロック研究発表会では、4 ブロックに分かれて（第 1 ブロック - 科学技術館・第 2 ブロック - 天王寺動物園・第 3 ブロック - 科学館・第 4 ブロック - 大学講師講演会）それぞれ講師を招聘し研修会を実施した。その後のアンケートにおいて、授業改善のヒントとなったとの意見が多く出るなど、好評であった。
- ・生徒理科研究発表会では、夏休みの理科の自由研究課題や部活動（理科部・科学クラブ）の研究課題の研究発表と展示発表を行った。「プレゼンテーションの部」「発明工作の部」「実験・研究の部」の 3 部門で発表を行い、優秀な作品や発表は大阪市立中学校総合文化祭や大阪府学生科学賞に出展した。生徒の研究への意欲と実験技量の向上や理科教員の指導力向上に役立った。
- ・理科教員観察実習研修では、「淀川水系・イタセンパラ保全フィールドワーク・城北ワンドの自然観察」「瑞浪層群の地層観察と化石採集」など、理科教員の研修の場を提供し、授業力向上への支援を行った。
- ・全国中学校理科教育研究発表会東京大会へは 4 名が参加した。「教育課程」「学習指導・評価」「観察・実験」「環境教育」についての研究発表・研究協議会に参加し、その成果を、全市研究発表会で報告した。

音 楽 部

未来を切り拓く、豊かな感性を育む音楽教育の創造

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

有 田 伸一朗（大淀中学校）

- ・心の教育を担う教科「音楽科」では、令和元年度より研究主題を一新し、本年度行われた近畿音楽教育研究大会大阪大会に向け研究を重ねた。4 つの研究班に分かれ「表現及び鑑賞の幅広い音楽活動を通して、主体的に音や仲間とかかわり、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と深くかかわることのできる資質・能力を育成すること」を目標に、研究・研修を推進した。
- ・研究の進め方として、(1)「主体的に学びに向かう力を育成すること」何を学ぶか、どのように学ぶかを明確に示し、音楽科の授業の中で音楽がどうよくなったか、何ができるようになったかの振り返りを確実にし、生徒が主体的に学びに向かう力の育成を図る。(2)「対話的な学習を通して、感性を育てる力を育成すること」仲間と協働する対話的な学習を通して、相互に思いや考えを、対話（言語活動）を通して深め合い、音楽で確認・判断しながら、より良い感性を育てる力の育成を図る。(3)「郷土の伝統芸能・伝統音楽『文楽』の学習を推進すること」グローバル化する社会を生きる子どもたちが、我が国と郷土の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた国と、自らが育った大阪を愛し、郷土「大阪」に愛着が持てるよう、大阪の伝統芸能・伝統音楽「文楽」を学ぶ学習を通して、子どもたちの育成を図る。(4)「指導と評価の一体化」新学習指導要領の完全実施に伴い、指導と評価の一体化を図る。(5)「教員の授業デザイン力を育成すること」主体的・対話的で深い学びに向けた授業デザイン力を図る。(6)「教員の授業力や指導力を向上すること」実技指導を充実させることにより、音楽科教員としての授業力・指導力の向上を図る。(7)「I C T 機器の活用」音楽科授業で I C T 機器の活用を図る。これらについて研究することとした。
- ・全市研究発表会では、11 月に行われる近畿音楽教育研修大会大阪大会に向けたプレ授業として位置づけて、4 つの研究班に分かれ行い、指導と評価の一体化について協議したり、オンデマンド配信に向けたカメラテストをしたり熱心に研究活動を重ねた。
- ・研究の集大成として、令和 5 年 11 月 10 日に「第 65 回 近畿音楽教育研究大会大阪大会」を開催した。午前中は 4 校の中学校会場で、研究授業等を行い研究成果を発表した。午後からは、ザ・シンフォニーホールで全体会を行い幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援のすべての校種の先生方が一堂に会し、研究演奏や指導講評が行われ感動のフィナーレとなった。
- ・近音研大阪大会の開催にあたり、すべての中学校並びに義務教育学校の校長先生には、教員の派遣と資料代の支出についてご高配をいただきましたこと、甚だ失礼ながら紙面を通じてお礼を申し上げます。また、プレ授業はじめ大会分科会会場の提供にご理解とご協力をいただきました各中学校の校長先生はじめ教職員の皆様方に重ねてお礼を申し上げます。
- ・今後は、次年度の研究体制を含め、音楽科組織として音楽科教育の質の向上と教員の実践的指導力の向上に取り組んでまいります。

美術部

造形的な見方・考え方を働かせるための学習をめざす

～美術が果たす役割を実感させるために～

石 川 文 子（東陽中学校）

美術科においては常に課題を見据え、何よりも作品の制作から子どもたちを育成することを第一に取り組んできました。今年度は、コロナ前の状況に戻りつつある中で、学校は何を教えるべきなのか、子どもたちにどのような力をつけるべきなのかを追求してきました。新学習指導要領は、本格実施となっています。本研究会では「造形的な見方・考え方を働かせるための学習をめざす ～美術が果たす役割を実感させるために～」を研究主題に活動を進めてきました。これからは、子どもたちが活躍する20年後、30年後の未来を見据えた教育が必要となります。今年度も子どもたちが意欲を高め、進んで美術の学習に取り組み、更には感性や造形感覚を高めるために全市研究発表会、自主研修会、各種展覧会（総合文化祭・美術展・美術部展、造形展 他）の運営において、さらに充実した取組を進めることができました。「造形展」においては、今年度も大阪芸術大学のご協力により開催することができました。

いずれにおいても来年度につながる有意義な研究を進めることができました。

保健体育部

 子どもの運動に対する関心・意欲を高めることにより体力の向上を図るとともに、
 将来に夢や目標を持って学習に取り組める生徒を育成する保健体育の授業づくり

ーダンス授業の研究ー

阿久津 弘 治（今津中学校）

今年度の研究主題を「子どもの運動に対する関心・意欲を高めることにより体力の向上を図るとともに、将来に夢や目標を持って学習に取り組める生徒を育成する保健体育の授業づくり」として、ダンス授業の研究に取り組みしました。

ダンスは、個人の運動能力や技術の習得状況に合わせてさまざまな表現方法があるため、達成感や満足感につながることができる要素があります。また、簡単な動作から基本ステップ、流行しているステップやCMの動きを取り入れ、運動嫌いの生徒でも運動を始めるきっかけとすることにもつながります。ダンスの授業を進めるにあたって、生徒の体力向上をめざすとともに、保健体育科教員の指導力向上を図っていくことにつなげたいと考えました。

全市研究発表会では、加賀屋中学校保健体育科教員による公開授業を通して、研究報告・協議を実施しました。当日は180名を超える先生方が参加し、生徒の活動の様子、外部講師の方を招いての教員との連携、研究報告・協議を通じて講師の方からの助言や他校の先生方とダンス授業について様々な意見交流を図ることができました。

今後、各校の実情や課題を踏まえ、ダンスの授業に活かすことができる研究発表会であったことが成果としてあげられます。

技術・家庭部

いのち輝く未来社会を実現(創造)する技術・家庭科教育

～深い学びへと導く、見方・考え方を働かせた実践～

村 上 美津子（新東淀中学校）

- 令和5年11月22日、第62回近畿地区中学校技術・家庭科研究大会大阪大会を開催し、近畿2府4県から800名を超える参加があった。学習活動及び思考の過程を可視化し、生徒自身が学びの深まりを確認するために作成した「解の再考ワークシート」活用の成果を発表するとともにコロナ禍を経て浸透した学習者用端末を効果的に活用し、授業実践を行った。

大阪市は、技術分野2分科会、家庭分野1分科会で公開授業、研究発表を行った。技術分野の「B 生物育成の技術」では、「技術の見方・考え方を働かせたラディッシュ・コンテストの一試行」をテーマに「技術的な問題発見・解決プロセスのトリプルループモデル」を取り入れ、2回のラディッシュ栽培を行った。『最も良い栽培法』を見出す学習活動を通じて、生物育成の技術を評価し改善を重ね、新たな提案を行うための実践的な態度を育成することができた。「C エネルギー変換の技術」では、「エネルギーミックスの考え方を生かそう」をテーマに、技術の見方・考え方を働かせてエネルギーミックスの必要性を認識し、電源構成の最適化について学びを深めるために個人の活動とグループの活動を往還する授業を行った。ワークシートの記述から、思考が深まり新たな気づきを得て、問題解決の視点や技術の概念形成につながったといえる。家庭分野は、「A 家族・家庭生活」において、「幼児のハートをキャッチしよう！（幼児とのよりよいかかわり方の工夫）」をテーマに、各校の実情に合わせて触れ合い体験活動を実施できるよう、オンライン訪問（ICTを活用した双方向通信）と保育所訪問の2種の方法を用いて授業実践を提案した。オンライン訪問では移動時間のカットにより学習活動の時間が確保でき、保育所は2回訪問を行うことで、体験に基づいてかかわり方を改善することに成果があった。

- 第23回創造アイデアロボットコンテスト大阪市中学生大会兼近畿大会を開催し、基礎部門、計測・制御部門、応用・発展部門、ライントレース部門、相撲部門に17校、88チームが参加した。チームごとに創意工夫して製作されたロボットを巧みに動かし、熱戦が繰り広げられた。対戦、観戦を通じて他チームのアイデアから新たな発想を得て、改善意欲を高める機会にもなった。
- 大阪府立中学校総合文化祭展示部門に参加し、実習・実技の成果の交流を図ることができた。優秀作品は近畿大会、全国大会に出品し、技術分野、家庭分野ともに1作品ずつ審査員特別賞を受賞している。

英 語 部

4 技能 5 領域の総合的な能力向上

～2025 大阪万博でコミュニケーションが取れる生徒の育成をめざして～

松 村 隆 (我孫子南中学校)

- ・今年度はブロック研究発表会で、各ブロックを分割して7つの会場で研究発表会を開催することができた。
- ・市長杯中学生英語暗唱大会・スピーチ発表会（会場：矢田南中学校）は、今年度も開催し、優秀な英語暗唱とスピーチ発表があり、日頃の成果を見ることができた。
- ・全市研究発表では、「コミュニケーション能力の向上をめざして」と題し公開授業を行い、その後パネルディスカッション形式で討議を進めた。新しい試みで、発表中 Teams のチャット機能を使い、参加者からの質問を共有しながら進めることができた。
- ・全市中学校英語科教員対象に、小中連携に関するアンケートを実施した。まとめ、考察とともに、ホームページ上にあげている。また今後の研究に活用されたい。
- ・English Festival について、昨年度は開催できなかったが、参加校の協力を得て開催することができた。楽しみながら素晴らしい発表を見ることができた。今後も振るっての参加を期待しています。
- ・専門委員の活動を通して、全市的な研究活動、教材や指導法の情報共有、研修等の機会を持つことができた。

道 徳 部

多面的・多角的な視点で考え議論する道徳教育の創造

～ペアワークやグループワークを取り入れ言語力を育てる道徳科授業づくり～

神 田 敏 生 (夕陽丘中学校)

今年度は土曜学習会・道徳教育推進委員会を定期的に開催するとともに、令和元年度以来4年ぶりに公開授業をとまなう全市研究発表会を開催できた。

また、令和5年度文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」研究校・推進拠点校の校内研修・小中合同研修・小中相互参観授業・公開授業では各校とも「触発者」の視点で教材を深めるペアワークやグループワークを取り入れた「主体的・対話的で深い学び」にもとづく授業展開の実践がみられた。

今後は、これまで未収録であった教材を収録した「学習指導案集」および『「道徳科」授業づくりハンドブック』の改訂版（3版）を発行し、各中学校へ配布する予定です。

特別活動部

生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造

進 藤 文 代 (白鷺中学校)

特別活動部では「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という資質・能力を生徒一人ひとりが自ら身につけていくことが大切であるという考えから、「生徒会活動を中心とする特別活動」と「キャリア教育をはじめとする進路指導」の二本柱で取り組みを推進してきた。

全市研究発表会では、前半はキャリア教育講演として、NPO法人JAEのキャリアコーディネーター 角野 綾子様より、「らしさ発見プログラム ～職場体験から新たなキャリア教育体験～ キャリアコンサルタントとの対話による効果～」という内容で講演いただいた。「らしさ発見プログラム」をともに行っている、特定非営利法人 x T R e e E の北川雄久 様、青柳智子 様、原麻衣子 様とともに、実際のプログラムの体験を交えながらの講演となった。

JAEやx T R e e Eの考えるキャリア教育では、「自分のあり方」に関する授業が大事であるという考えから、自分の「好き」に気づく・自分の「あり方」に目を向ける授業として「らしさ発見プログラム」を、紹介していただいた。

「らしさ発見プログラム」は、事前学習で、「自分らしさ」についてワークシートに記入しながら考えてみたものを、交流学習で、グループワークやキャリアコンサルタントと対話をして自分を見つめ、自分からみた自分・仲間からみた自分・プロからみた自分と、自分らしさについての考えを深め、ふりかえり、気づき・学びをふりかえり、「これからの自分」につなげるというものである。

子どもたちの自己肯定感にアプローチし、仲間や専門家との対話を通して、自他の「よさ・もちあじ」を見つける「まなざし」を育むことや、長所と短所は表裏一体の個性であるという気づきを促し、自分自身の「よさ・もちあじ」に気づくことをねらいとしている。自分のことを知らない、話せない生徒が多い中で、有効な取組だと感じた。

また、キャリアコンサルタントからみた小中学校におけるキャリア教育の課題もお話いただき、今後の取組をより良いものにするための参考となった。

後半は、先日行われた、全国特別活動研究協議会大阪大会・近畿特別活動研究協議会大阪市大会の報告を3名の先生が行った。

第7分科会報告「自他の個性を理解して尊重し、より良い人間関係の形成を図る『笑育』」では白鷺中学校・青木 信一 指導教諭が、これまで8年間の白鷺中学校での『笑育』の取組や効果検証などの報告を行った。

第11分科会報告「スマホ依存にオール大阪で取り組む ～大阪市スマホサミットの軌跡～」では、難波中学校・佐和 保奈美 教諭が、スマホサミット開催の経緯やこれまでの流れ、成果や課題を報告した。

子どもシンポジウム「OSAKA スマホサミット 2023」では、白鷺中学校・泉 和樹 教諭が、当日の話し合いの結果も交え、小中学生もスマホ依存について真剣に考えていること、一人だけではルールを守れないので協力が必要なこと、大人と子どもでは、大事だと思う部分の考えが違うことなどをアンケート結果も活用して報告した。

今後も特別活動部では、さまざまな実践事例をもとに、生徒会活動とキャリア教育の視点から特別活動の研究を進める取組を推進していきたい。

生活指導部

生活指導上の今日的な課題を把握し、地域・関係機関と
連携・協働した効果的かつ組織的な生活指導体制を研究する 平 尾 仁 志 (美津島中学校)

- 講 演 子どもの「やった!」「できた!」を増やすポジティブ行動支援
～問題行動を予防し、望ましい行動を伸ばすには?～

大阪教育大学准教授 庭 山 和 貴

PBS (ポジティブ行動支援) について生徒指導提要とも関連付けながらエビデンスに基づいて説明したのち、「あれダメ、これダメ」タイプの指導と「いいね!出来てるね!」タイプの指導を比較するためにペアワークを実施した。PBS では、行動前に具体的に何をすればいいのかをきちんと伝え、お手本やヒントを出すことで望ましい行動に繋げること、行動の後にはできている事へのポジティブなフィードバックが継続への近道であると話された。PBS を「何でも褒めなければならない」と勘違いしている教員が多いので、その間違っただけの思い込みを訂正し PBS の本来の考え方をきちんと伝える良い機会になった。

○研究発表

- ・「PBS について実践報告」 大阪市立井高野中学校 上 田 奏
- ・「PBS 部活動 ～子ども中心の運営に向けて～」 大阪市立三稜中学校 尾 山 一 誠
- ・「PBS×授業実践」 大阪市立天満中学校 嘉 名 優 介
- ・「PBS に取り組んだ 500日
～子どもの心理・行動面を支える学校の文化や風土の醸成～」 大阪市立十三中学校 鳥 飼 正 葵

PBS を学校全体として推進していくことにはハードルが高いので、研究発表では自分の担当する教科・部活動・学年などから PBS を進めている各校での取り組みについて 4 人の先生から発表いただいた。講師の庭山先生からは、教師の「こんな姿になってほしい」、生徒の「こんな姿になりたい」を実現するための枠組みであり、全員で進めなくても、できるところから始めたほうが、周りの先生方の理解が進むのではないかと助言いただいた。

特別支援教育部

子どもたち一人一人が、共に学びに向かい
生きる力を育む教育をめざして 鹿 嶽 昌 彦 (弘済中学校)

研究活動について

- ・第 60 回近畿特別支援教育連絡協議会京都市大会
第 6 分科会 (交流及び共同学習)
「共に学び 共に育ち 共に生きる」
～互いを尊重しあえるあたたかな学級・学年集団を育てる～ と題して、川勝 純 先生(港南中学校)が誌上にて発表。
- ・全市研究発表会
「自立活動の視点を活かした教育活動の工夫」と題して、藤原 彰子 教授 (大阪体育大学教育学部)の講演を新北野中学校より Teams 配信で実施。小教研特別支援教育部を通じて小学校にも参加の呼びかけを行い数名参加。
- ・インクルーシブ研修会
第 1 回 令和 5 年 6 月 27 日 (火)
会場 大阪市立巽中学校 (Teams でも同時に配信)
内容 テーマに沿った内容の情報交換 テーマ:「大阪市立中学校の通級指導教室について」
第 2 回 令和 5 年 11 月 28 日 (火)
会場 大阪市立巽中学校 (Teams でも同時に配信)
内容 テーマに沿った内容の情報交換 テーマ:① 不登校生徒への対応 ② 自立活動 ③ 評価 (成績のつけ方)
第 3 回 令和 6 年 1 月 26 日 (金) (予定)
会場 大阪市立巽中学校 (Teams でも同時に配信)
内容 テーマに沿った内容の情報交換 テーマ:「通級指導教室の現状と課題」

交流行事について

- ・大阪市中学校特別支援教育担任者会と協力して全市的行事が開催された。合同うんどう会 (6 月 7 日 (水)) 長居第 2 陸上競技場)、ふれあいデイキャンプ (11 月 13 日、15 日、22 日 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター (アミティ舞洲))、生徒作品展 (1 月 25 日～31 日 (予定) 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター (アミティ舞洲)) が開催となった。

そ の 他

幼稚園・小学校との連携では、大阪市特別支援教育校園長連絡協議会を実施し、それぞれの学校園からの発表の後、小グループに分かれて情報交換を行った。また、中教研全市発表会同様、小学校教育研究会特別支援教育部主催の特別支援教育研修会 (12 月 25 日 (月)) 参加の案内を全中学校に案内した。2 月 29 日 (木) には、小教研特別支援教育部と合同で支援を要する子どものキャリア教育について、特例子会社株式会社ダイキンサンライズ摂津の代表取締役社長の講演と会社案内をオンラインで実施する予定である。

保健養護部

養護教諭の専門性と資質の向上をめざして

河 原 亜 紀 (加美南中学校)

研究主題に基づき、各ブロックにおいての共同研究、学習会とスキルアップ研修会を行った。

- ・ 全市研究発表会では、第3教育ブロック（a 中央区・西区・大正区・浪速区・西成区）が「スマホ・ネット時代から見えてくる子どもたちの健康課題」をテーマにした共同研究発表を行った。

ICT機器の利用によって起こるトラブルや健康課題についての啓発や適切な利用方法についての実践を報告した。保健教育実施後の生徒には行動変容がみられ、保護者からも、スマホの使い方を子どもと一緒に考えるきっかけとなったという声も多くいただいた。研究会参加者の関心が高く研究協議も熱心に行われた。

- ・ 学習会では、関西大学保健管理センター所長 康 純 先生をお迎えし、「性の多様性」というテーマで、日本におけるセクシャリティーやジェンダーの歴史的背景や専門的な立場から見た性の多様性についてご講演いただいた。
- ・ スキルアップ研修会は、「アクションカードを使った救急体制について」をテーマに教職員研修を想定してのロールプレイを実施した。

情報技術部

多様化する情報を活用する力を身につける

近 藤 正 宏 (本庄中学校)

- 情報技術部では、今年度も、例年どおり情報教育部門・新聞教育部門・統計教育部門の3部門が連携し、関連性を持たせながら研究を進めた。その独自の特徴を持つが故、3部門がそれぞれの研究内容を持ち寄り、一つの発表にまとめる取組においては多大な時間と労力を要するものとして、幾多のハードルを越えての全市での発表となっている。しかしながら、現在の教育現場における情報の収集・分析・活用の必要レベルについては、かつてあり得なかったほどに上昇している。そのことを踏まえ、今後も情報技術部の取組はあゆみを止めることなく前進していかなければならないと考えている。

今年度の全市の発表は協議の上、3部門の専門委員が協力する中、統計教育部門と情報教育部門の研究結果を発表することとした。その内容については以下のとおりである。

(1) 統計教育部門

『総務省統計局主催の講習会の分析から』

- ① 大阪市立玉津中学校 槌田 祥孝 教諭
「STEAM教育の紹介と実践的活用の可能性」
- ② 大阪市立阪南中学校 小寺英一朗 教諭
「野球の分析に活用されるグラフの種類と利用法」
- ③ 大阪市立大正東中学校 山崎 真史 教諭
「統計ソフト【CODAP】を利用した統計処理の手法」

(2) 情報教育部門

『進展するICT教育を追求して』

- 大阪市立 西 中学校 吉村 祥弘 教諭 (協力) 株式会社 SKY
「学習活動端末支援 Web システムについて」

教育メディア部

「生きる力」と「感動する心」をはぐくむ教育メディアの研究

～学校図書館、放送・視聴覚教育を通して～

田 村 敬 子 (相生中学校)

放送・視聴覚教育部門では、7月に「第40回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト大阪大会」の企画・運営を行い、代表を選出する審査を行った。8月に全国大会決勝が行われている。

7月には、4ブロック合同で読売テレビの施設見学を行った。また、10月の全市研究発表会では、2校の授業実践の報告を Teams によるオンラインで行い、研究協議を Teams のブレイクアウトルームと Google の JamBoard を活用して実施した。研究協議で質問のあった内容については後日、参加者全員にメールで返信しており、この流れを1つのモデルケースとして、今後も検討していきたい。事前の研究協議および指導助言を大阪教育大学の森田 英嗣 教授にお願いした。

図書館教育部門では、「第69回大阪市青少年読書感想文コンクール」「第41回大阪市読書感想画コンクール」の企画・運営を行い、表彰式を開催した。また、11月に開催された第55回大阪府・大阪市合同学校図書館研究集会では、「学びを支える学校図書館」という研究主題のもと発表を行い、学校図書館の取組について交流を行った。後半は、花園大学 中 義則 教授から「図書館教育とNIE」というテーマで講演があり、深い学びを支える「学校図書館」の活用について、さまざまな視点からのお話を聞くことができた。

ブロックより研究活動・成果について

第1ブロック

豊かな心の醸成と社会の変化や課題に対応できる資質・能力の育成

－「新たな学び」の実践と交流－

田野原 千 佳 (西淀中学校)

- ブロックの研究主題をもとに、各部門で主題を設定し、調査・研究活動を推進した。
- 他のブロックと共同開催や、オンラインでの実施など、コロナ禍を経て工夫された研究活動を行った。特に、若手教員や中堅教員にとっては、教員相互の情報交換（交流）や研修の良い機会となった。
- ブロック研究発表会ののちに実施された「全市研究発表会」では、さらに他のブロックの教員と交流を深めるなど、主体的・対話的で深い学びの実践に向け、それぞれが研鑽を積むことができた。

第2ブロック

主体的で、協働的な学び手を育む教育の創造

－「つながり」を生かした学びの場を通して－

中 山 寿 男 (大宮中学校)

ブロックの研究主題を前年度から引き継ぎ、教科・領域ごとに調査・研究を進めました。

8月31日を基準日として開催したブロック研究発表会は、開催したすべての教科・領域において対面で行うことができました。生徒同士のつながりを大切にした主体的・対話的な学びの充実をめざした研究活動を、教員もお互いのつながりを大切にしながら深めることができました。

一人一台端末をはじめとする ICT 機器の活用した授業づくりの研究にも取り組み、「協働的な学び」と「個別最適な学び」の両面から、生徒の学びの充実に向けた調査・研究を行うことができました。

今後も引き続き、充実した活動を積み重ね、生徒一人一人がいきいきと学ぶことができるウェルビーイングの実現をめざしてまいりたいと考えています。

第3ブロック

豊かな心の醸成と持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成

－新しい未来の姿を構想した実践交流－

藤 本 哲 (南港南中学校)

- ブロックの研究主題をもとに各部門で主題を設定し、各部門の特性を生かした方法で研究活動を推進した。
- 8月30日の基準日に「ブロック研究発表会」を実施し、部門ごとに教員の情報交換・共有を行い、授業力や指導力の向上につながるよい機会となった。
- 来年度に向けても、子どもたちの新しい未来の姿を構想しながら、全市・ブロック研究発表会が一体となった実践交流を進めたい。

第4ブロック

見方・考え方を働かせ、資質・能力を育み豊かな未来を切り拓く教育の創造

南 義 徳 (長吉西中学校)

本ブロックは8月30日を基準日として、ブロック研究主題をもとに全市研究会と兼ねた5部門以外の部門での研究発表会となった。

大学や教育委員会から講師を招いての公開授業や指導方法研修会、施設見学・体験的研修や生徒会交流会など、多くの有意義な取り組みが実施され、特に若手の教員にとってはめったとない情報交換の機会とすることもできた。

今後も「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化し、Well-Being《精神的豊かさ》を重視した社会について考察できる生徒の育成を目指した実践交流に加えて、教職員間の協力体制が広がる活動としていきたい。

令和6年度 大阪市立中学校教育研究会 組織改選等について (予定)

日 程	内 容
3 月 下 旬	○書記より各校に、「部門別会員名簿作成依頼」を送付
4 月 5 日 (金)	○各学校において「部門別会員」を確認
4 月 12 日 (金)	○各学校より部門別会員名簿を書記に提出 ○本部役員選考委員会による本部役員の選考
4 月 17 日 (水)	○本部役員の指名、全体会の案内状を送付
4 月 17 日 (水) 4 月 24 日 (水)	○書記より、各学校の部門別会員名簿を16部門の部長に送付
4 月 中 旬 下 旬	○4つのブロック委員長へ文書「ブロック委員長の役割」を送付 ○各ブロック委員長より各部門担当校長名簿 ⇒ 書記に送付 ○書記が各部長に各ブロックの担当校長名を連絡 ○各部長とブロック担当校長とで専門委員の調整
5 月 上 旬	○各部門の部長は、部長、副部長、会計、小中連携担当、I C T、H P 担当及び専門委員の選出を行う。 ⇒ 書記に送付 (副部長は2～3名程度、専門委員は各ブロックに3名程度)
5 月 中 旬 下 旬	①各ブロックにおいて委員総会を開催し、ブロック委員長、副委員長、会計、専門委員の選出を行う。 ⇒ 書記に送付 ※ブロック委員長と部長は原則兼ねない。 ※専門委員の選出の際は、各部長との調整を行う。 ②ブロックの研究主題を検討・決定する。 ⇒ 書記に送付
5 月 22 日 (水)	○中学校教育研究会全体会 ※本部役員の選出 ○各研究部 ・専門委員及び部長、副部長、会計、小中連携担当、I C T、H P 担当を選出する。 ⇒ 書記に送付 ・研究主題等を決定する。 ⇒ 書記に送付
6 月 中 旬	○各ブロック ブロックの教科・領域担当校長と各部長とで連携し、ブロック内の専門委員の追加・訂正を行う。

※表中の提出・送付となっているところは、Skip による送受信で行う予定。

令和 5 年度 大阪市立中学校教育研究会 評議員会記録

第 5 回 評議員会

令和 5 年 11 月 9 日 (木)
 於:大阪市教育センター
 8 階研修室 5

- (1) 全市研究発表会について
- (2) 年間計画・今後の研究活動について
- (3) 研究集録『研究の歩み』『会報』について
- (4) その他
 - ① 小中一貫教育委員会実施について
 - ② 会計事務連絡
 - ③ 連絡事項

第 6 回 評議員会

令和 6 年 1 月 26 日 (金)
 於:大阪市教育センター
 8 階研修室 5

- (1) 本年度のまとめ
- (2) 本年度会計について
- (3) 令和 6 年度の研究活動について
- (4) その他
 - ① 来年度の日程について
 - ② 中教研会報について
 - ③ WEBページについて
 - ④ 本部役員選考委員会について
 - ⑤ 中教研組織改選等について
- (5) 評議員研修会

「中学校教育研究会に求めるもの」

大阪市教育委員会事務局 指導部
 指導部長 大 西 啓 嗣 様

令和 6 年度の日程

- 中 教 研 全 体 会 …… 5 月 22 日 (水)
- ブロック研究発表会 実施基準日 …… 8 月 28 日 (水)・29 日 (木)
- 全 市 研 究 発 表 会 …… 10 月 9 日 (水)
- 全 体 研 修 会 …… 11 月 7 日 (木)
- 評 議 員 研 修 会 …… 1 月 24 日 (金)

ブロック研究発表会・全市研究発表会の開始時間につきましては、14 時以降で予定しています。

【大阪市立中学校教育研究会は、本年度（令和 5 年度）、公益財団法人 日本教育公務員弘済会大阪支部より研究助成を受けて研究活動を行っております。】

令和 5 年度 大阪市内立中学校教育研究会・全体研修会

令和 5 年 11 月 9 日 (木)

於：大阪市教育センター

「総合的読解力育成カリキュラム」について

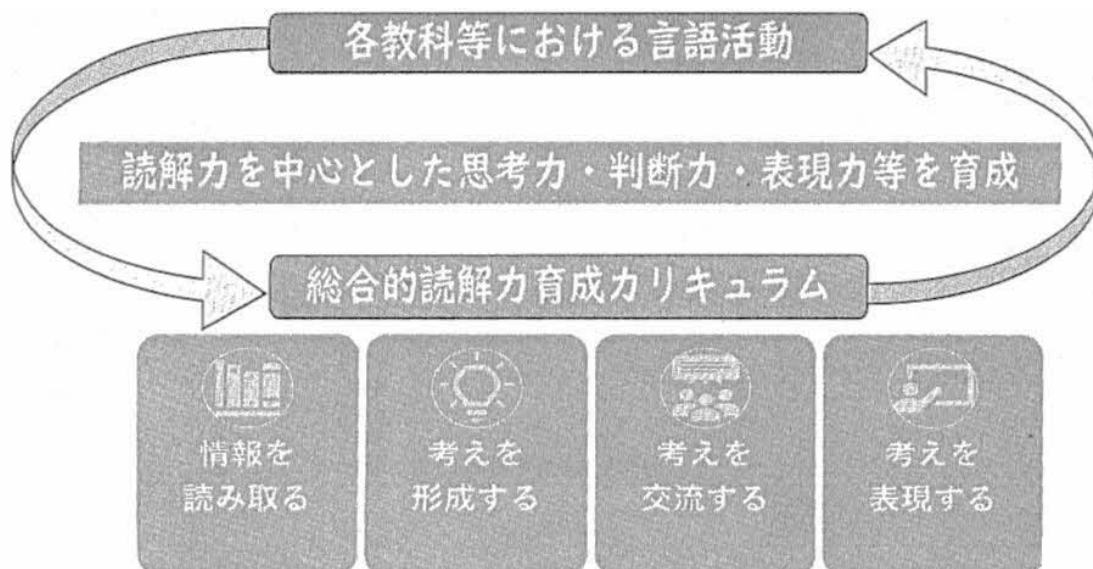
大阪市教育センター 指導研究グループ

指導主事 田 邊 宜 雅

1. 総合的読解力育成カリキュラムの必要性について

- ・総合的読解力とは、文章を読んで、その内容を理解する能力である。
- ・情報を正しく読み取り要約することに加え、読み取ったものから考えを形成すること、さらにその考えを表現するとともに、交流してその考えを広めたり深めたりすること、これらができる力を総合的読解力とする。
- ・文章だけでなく、図・グラフ・表などからも情報を読み取ることができる力。
- ・考えるための技法を活用して、目的に応じて情報を処理することができる力。
- ・言語能力を育成するためには、第 1 章総則第 3 の 1 (2) や各教科等の内容の取扱いに示すとおり、全ての教科等においてそれぞれの特質に応じた言語活動の充実を図ることが必要であるが、特に言葉を直接の学習対象とする国語科の果たす役割は大きい。(中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 P.50)
- ・言語活動は、言語能力を育成するとともに、各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を身に付けるために充実を図るべき学習活動である。

前述(本解説第 3 章第 3 節 1 の (1))のとおり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たっては、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、各教科等の特質に応じた言語活動をどのような場面で、またどのような工夫を行い取り入れるかを考え、計画的・継続的に改善・充実を図ることが期待される。(中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 P.83)



2. 総合的読解力育成カリキュラムの概要について

① 情報を読み取る

様々な資料から情報を読み取り要約する

- ・グラフや図表 ・実用的な文章
- ・科学技術と社会のトピック
- ・確率・統計など数理的データを含む文章

② 考えを形成する

考えるための技法を活用し考えを整理する

- ・順序付ける ・比較する ・分類する
- ・関連付ける ・多面的、多角的に見る

③ 考えを交流する

互いの考えを出し合い協働して考えを広げる

- ・ペアトーク ・グループディスカッション ・ディベート
- ・パネルディスカッション ・ワールドカフェ

④ 考えを表現する

表現活動を通して思考を深める

- ・レポートを書く ・新聞記事を書く ・意見文を書く
- ・プレゼンテーションを行う ・スピーチする



3. 具体的な実践事例について（モデル校から出た意見）

- ・要約に使うキーワードを見つける力がついてきた。
- ・キーワードとキーワードをつなげて文を書くことができるようになってきた。
- ・生徒が活動に慣れ、要約のスキルが上がっていることが実感できた。
- ・子どもにとって身近なテーマだったため、自分の実生活と結び付けて考えることができた。
- ・教科の学習の中で、総合的読解力育成カリキュラムの教材を参考に授業内容を組み立てた。
- ・教材の文章になじみのない語句が多いため、普段の授業と比べて生徒が文章を読解するのに苦労していた。
- ・国語科ではないので要約の指導をしたことがなく、どのように進めていけばよいか手探りだった。
- ・どう生徒に伝えるかを考えるために、まず自分で教材を読み込み、理解しなければならなかったので、教材研究が大変だった。

4. ま と め

- ① これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力を、「総合的読解力育成カリキュラム」を通して育成する。
- ② 総合的読解力育成の基盤には、言語能力育成の視点（読み取りにおける生徒のつまづきを想定する視点）が大きく関わっている。
- ③ ①②のような視点は教科の指導にも必要であり、「総合的読解力育成カリキュラム」を通して各教科の実践と有機的なつながりを持たせることが重要である。